

変動する三陸～仙台湾の魚たち

2020年12月

一般社団法人漁業情報サービスセンター 東北出張所

1 冷水性魚類の水揚げが激減し関連漁業への影響は深刻です。

サケ減少

2020年11月末現在の宮城県水揚げ量は最低だった前年の66%に留まっている。

解説：サケ主産県の中で分布南限に近い宮城県と岩手県では、2019～2020年に激減し壊滅的な状態に陥っている。

写真1：2020/10/19 石巻

オキアミ激減

2020年は3月上旬に初水揚げするも、短期で漁場消滅し過去最低の水揚げに終わる。

解説：オキアミは親潮の最南端周辺に好漁場を形成することが多い。親潮は例年2～4月に宮城県金華山沖まで南下するが、近年は岩手沖で留まることが多くなった。特に2020年には親潮が3月上旬に宮城沖まで南下し漁場形成したものの約1週間で親潮が北上し漁場が消滅した。

写真2：2020/3/9 女川

コウナゴ水揚げ皆無

2019年石巻水揚げ量は2.5tと過去最低。2020年は水揚げ皆無。

解説：コウナゴはイカナゴのシラス稚魚。冷水性で15℃を上回ると砂底に潜り夏眠し、仙台湾では7～10月は餌を食べないで休眠している。大阪湾、伊勢湾、仙台湾などが主漁場であるが、近年いずれの漁場でも壊滅状態に陥っている。仙台湾では成魚が2019年秋～2020年春にかけて水揚げ皆無となったことから、夏季の海水温上昇により産卵親魚が激減した可能性がある。

写真3：2019/4/22 石巻

スルメイカ水揚げ低迷

2020年に石巻では11月にイカ釣りが久々に水揚げするも、大量水揚げに至らなかった。

夏季の釣イカ水揚げは皆無であった。

解説：スルメイカは全国的に減少傾向にある。宮城県では、2015年まで5～6月の初夏に胴長2～5cmの稚イカが沿岸に来遊し、8月以降、イカ釣船が仙台湾～三陸沖でスルメイ

カを漁獲した。近年は太平洋を北上する稚イカが減少し、夏季のイカ釣は消滅した。近年は9月以降、青森・北海道から南下したスルメイカ（日本海産と推定される）を底曳網が漁獲している。

写真4：2020/11/17 石巻

2 暖水魚は増加し水揚げ主体になりつつあります。

ブリ類 写真5：2020/10/3 石巻 定置網

2010年から増加、以後、高水準を持続。重要魚種。

2010年に日本海などで大発生した。それ以来、東北海域の漁獲量は高水準で推移している。

マアジ 写真6：2020/11/6 石巻 定置網

2015年から急増。仙台湾で産卵も確認。

サワラ 写真7：2020/2/5 石巻、底曳網

2013年以降、定置網と底曳網で重要な水揚げ魚になり、全国へ出荷している。

タチウオ 写真8：2020/8/27 石巻 定置網

2016年から急増、定置網と底曳網で重要な水揚げ魚になった。

ウルメイワシ 写真9：2020/6/17 石巻 定置網

2013年から増加、定置網でまとまった水揚げが継続するようになった。

ヤリイカ 写真10：2020/12/3 石巻、

2013年から底曳網で急増、金華山沖などで漁獲好調。スルメイカ減少を補っている。残存するイカ釣船もヤリイカ主体に漁獲している。石巻の水揚げ量は全国屈指となっている。

マダコ 写真11：2020/11/6 石巻 カゴ漁

2013年以降増加し、今年も好調。

ガザミ 写真12：2020/8/3 石巻、刺網、

2015年以降高水準の水揚げ。国内屈指の水揚げ量。

イセエビ 写真13：2020/9/17 石巻、刺網、

普通に見られるようになった。

3 石巻魚市場で暖水魚主体に新顔6魚種を確認

- 1) ウッカリカサゴ：写真14
- 2) カゴマトウダイ：写真15
- 3) テングダイ：写真16
- 4) オニテングハギ：写真17
- 5) ギンザメ：写真18
- 6) ツバメウオ：写真19

三陸～仙台湾で激減した冷水魚-関連漁業は大打撃



サケ減少

2020/10/19
石巻、2020
年11月末現在の
宮城県水揚
量は最低だっ
た前年の66%
に留まっている。



オキアミ 激減

2020/3/9
女川 3月
月上旬に初水
揚するも、
短期で漁場
消滅し過去
最低の水揚
に終わる。



コウナゴ
水揚皆無。
2019/4/2
2石巻
2019年石
巻水揚量
は2.5tと
過去最低。
2020年は
水揚皆無。



スルメイカ
水揚低迷
2020/11/17
石巻 イカ
釣が徐々に
水揚するも、
量はまとま
らず。夏イ
カは皆無。

三陸～仙台湾で急増した暖水魚-重要魚種として流通するようになった



ブリ類 高水準維持
2020/10/3石巻 定置網
2010年から増加、以後、
高水準を持続。重要魚種。

マアジ 好調
2020/11/6石巻 定置網
2015年から急増。仙台
湾で産卵も確認。

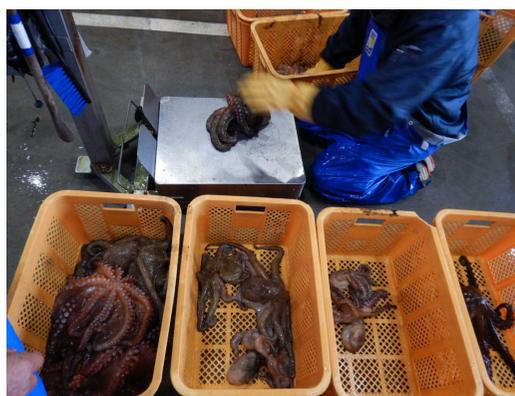
サワラ 好調
2020/2/5石巻、底曳網
2013年以降、重要な水揚
魚になった。

タチウオ 好調
2020/8/27石巻 定置網
2016年から急増、重要な
水揚魚になった。

ウルメイワシ 好調
定置網 2020/6/17石巻
2013年から増加、まとまった
水揚が継続するようになった。



ヤリイカ 高水準維持
2020/12/3石巻、底曳網 2013年か
ら急増、金華山沖などで漁獲好調。
スルメイカ減少を補っている。



マダコ 好調 2020/11/6
石巻 2013年以降増加し、今年
も好調。



ガザミ 好調
2020/8/3石巻 2015年以降高
水準の水揚。国内屈指の水揚
量。



イセエビ水揚増加
2020/9/17石巻 普通に見られ
るようになった。

新顔の魚たち—石巻魚市場



ウツカリカサゴ
2020/2/14



カゴマトウダイ
2020/4/2



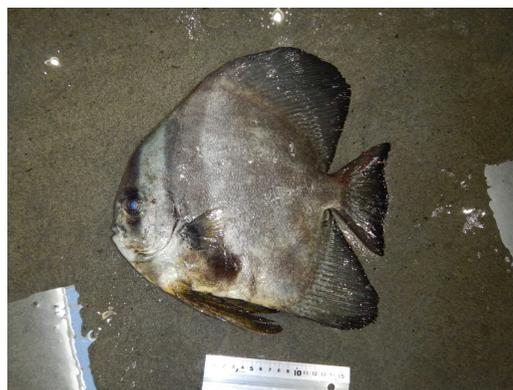
テングダイ2020/9/17



オニテングハギ2020/9/28

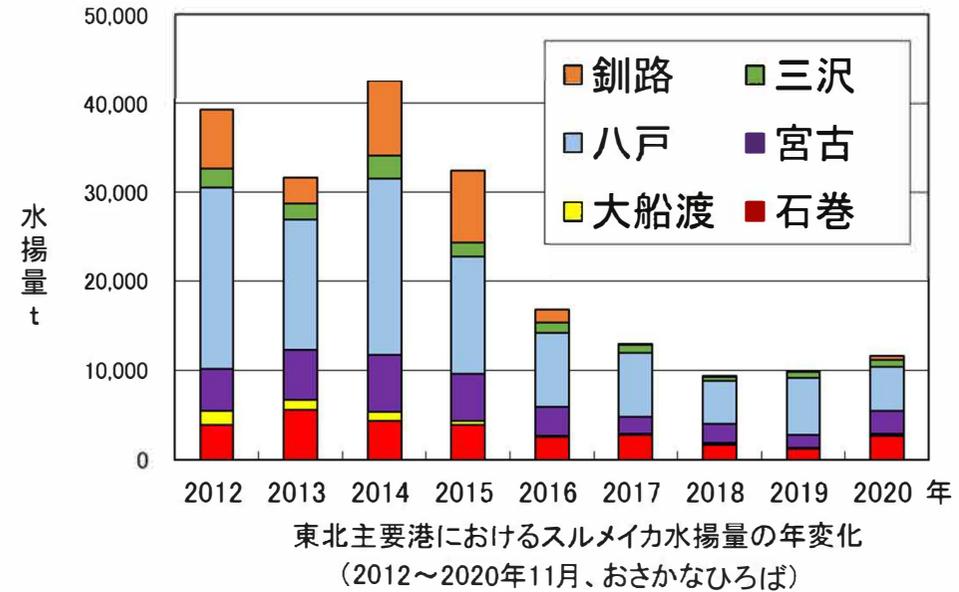
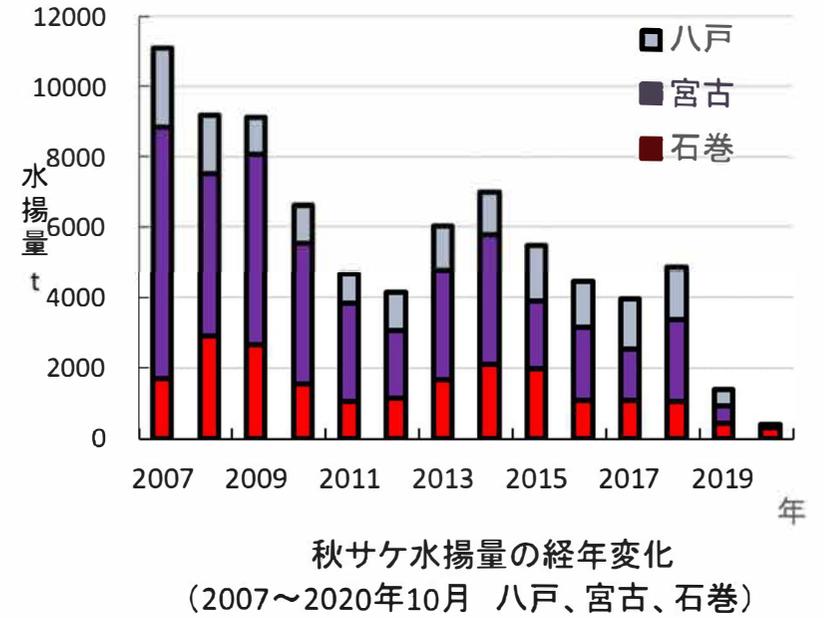
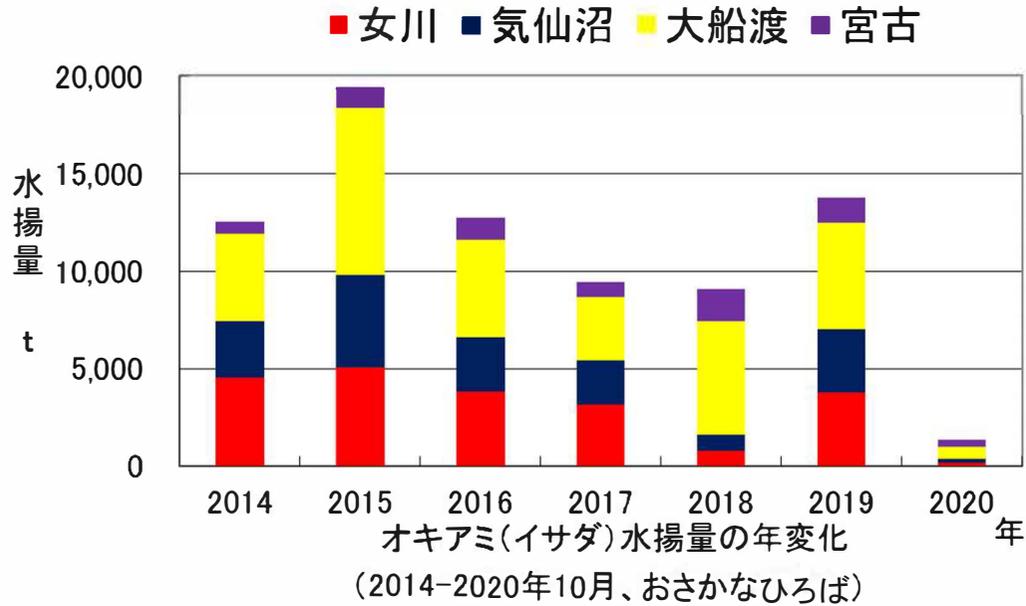


ギンザメ2020/10/14



ツバメウオ2020/10/14

新顔の魚たち



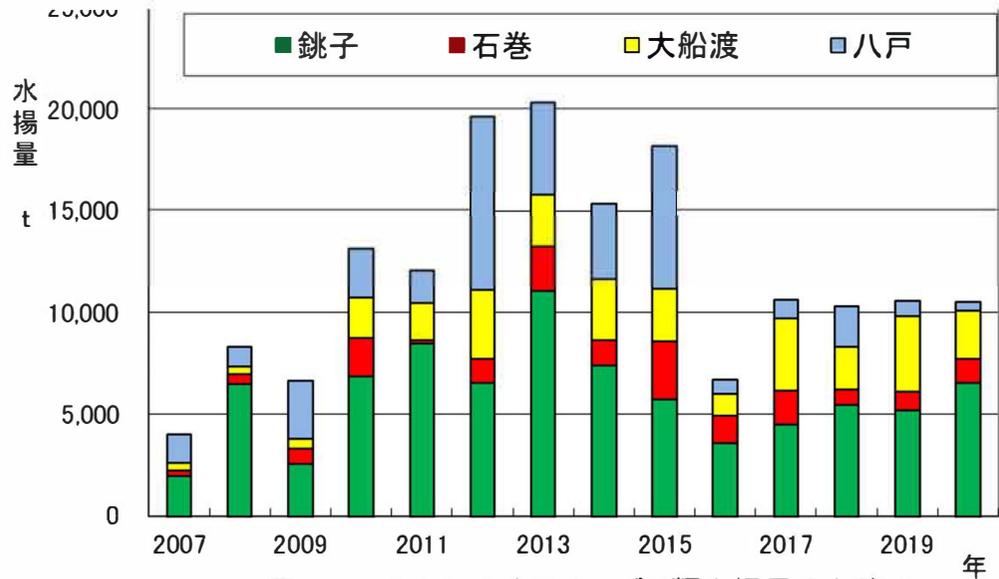
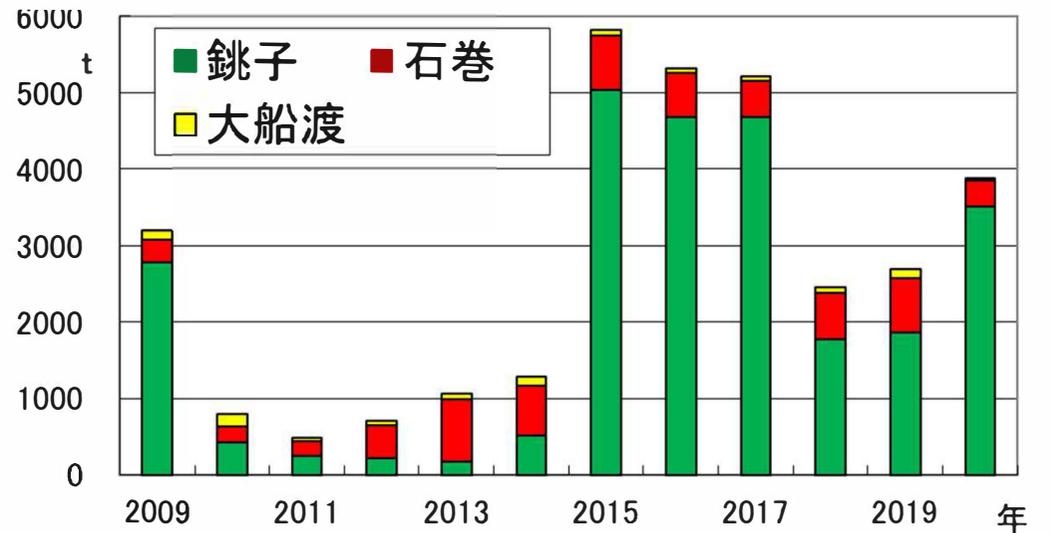
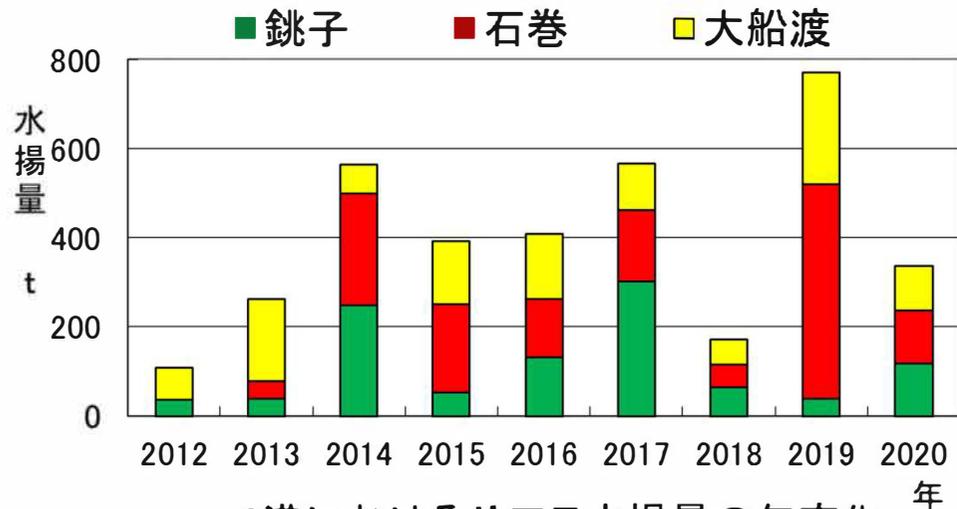


図 2007-2020年11月 ブリ類水揚量の年変化

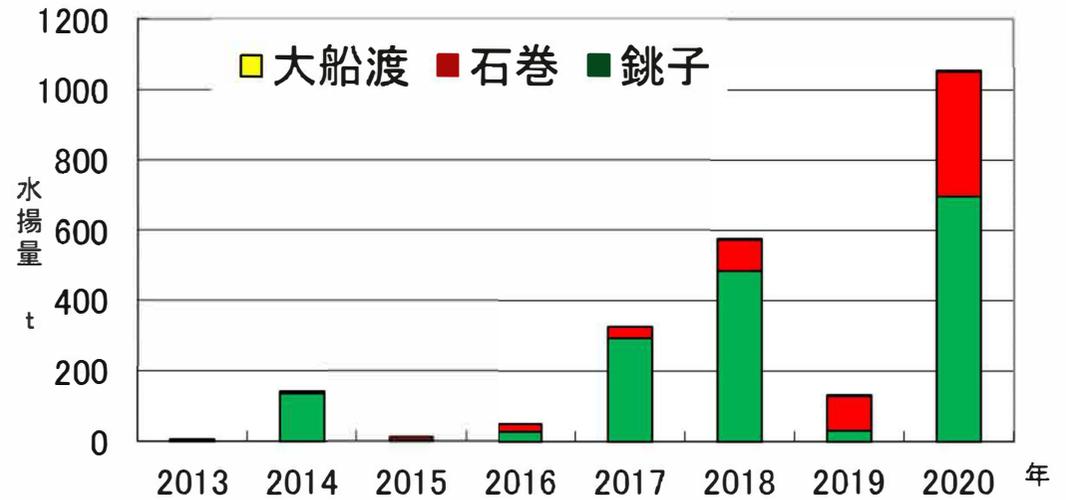


マージ水揚量2009年~2020年10月(JAFICおさかなひろば)



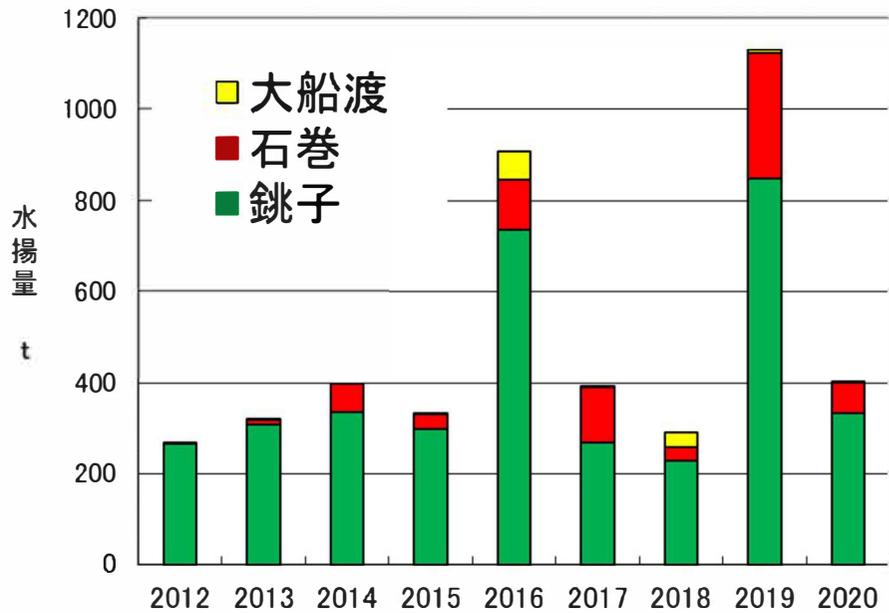
3港におけるサワラ水揚量の年変化

(2012-2020年11月、おさかなひろば)



3港におけるタチウオ水揚量の年変化

(2013-2020年11月、おさかなひろば)



3港ウルメイワシ水揚量の年変化
(2012-2020年10月、おさかなひろば)

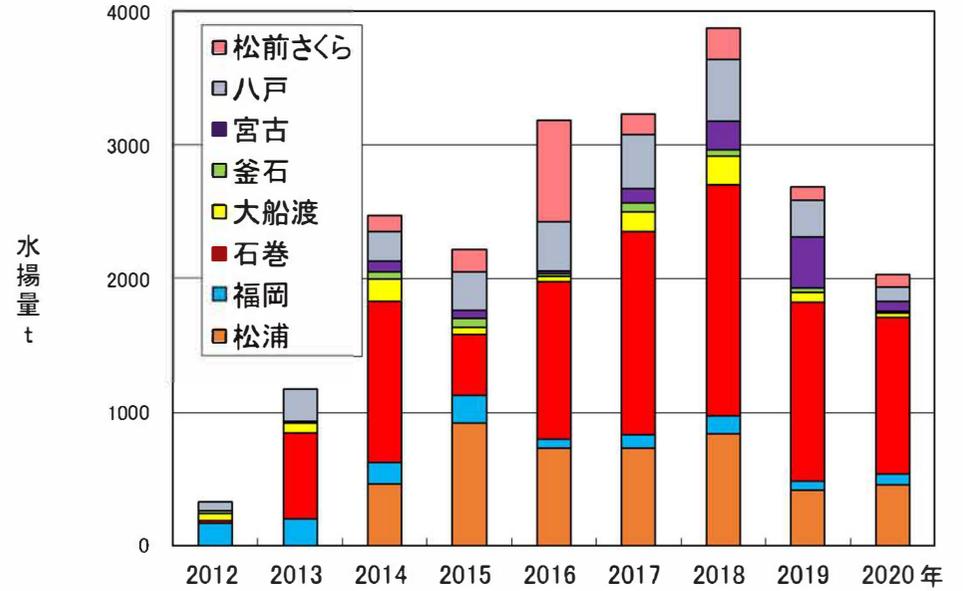
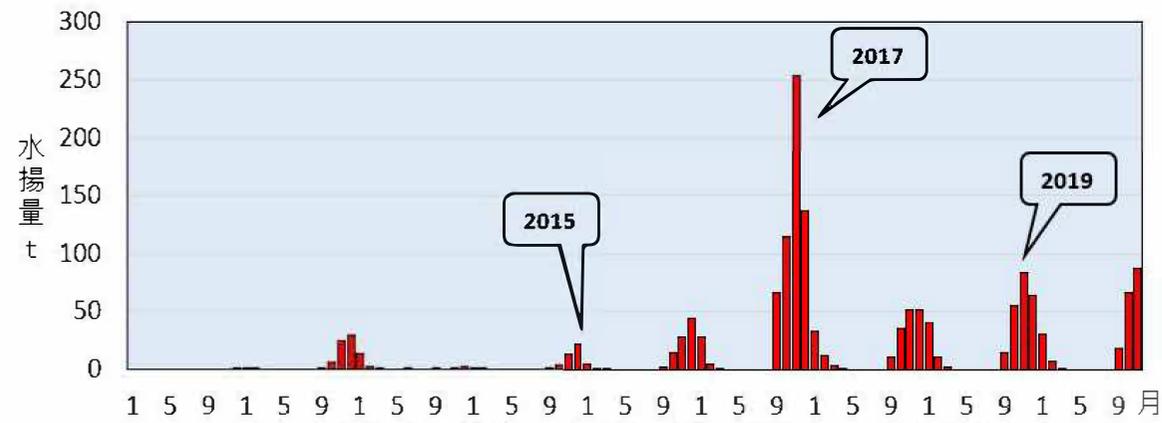
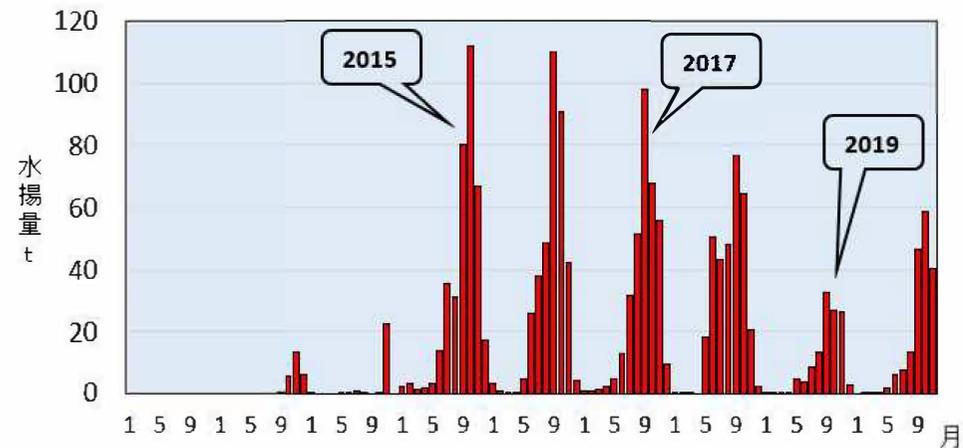


図3 全国主要港におけるヤリイカ水揚量の年変化
(2012~2020年11月、おさかなひろば)



石巻のマダコ水揚量(2012-2020年11月、おさかなひろば)



石巻のガザミ水揚量(2012~2020年11月)